

テーマ展示

彫刻家

# 関野聖玉雲の道具



「鑿・彫刻刀」上より3、9点目当館蔵、その他個人蔵

2010年  
3月21日(日)～9月26日(日)

場所／竹中大工道具館1Fテーマ展示コーナー

開館時間／午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)

休館日／月曜日(祝日の場合は翌日)

TAKENAKA  
CARPENTRY  
TOOLS  
MUSEUM



財団法人 竹中大工道具館



「大鉞」当館蔵

## 関野聖雲とは

現在、木彫関係者、研究者を除いて彫刻家・関野聖雲の名を知るものは多くない。しかし、明治以後木彫文化の礎として聖雲はあまりにも大きい存在である。

聖雲は本名を金太郎といい、神奈川県愛甲郡小鮎村（現厚木市）にて明治22年5月に生まれる。数え16歳のころ高村光雲の門弟になるも、明治39年4月には東京美術学校（現東京藝術大学）木彫選科に入学する。明治44年の卒業時には「白拍子」が同校作品買い上げとなり、作家としてその後の活躍も期待される。大正2年、第三回東京勸業展覧会にて技藝褒状を得て宮内省御用品になり、その後当時の新進彫刻家をあつめた「東台彫塑会」の旗揚げにも参加する。帝国美術院展覧会（帝展）にも第一回より出展し、第二回には「力光」で特選を受ける等、当時の木彫家としての代表格となってゆく。

東京美術学校木彫科助教授として聖雲が大正10年3月に任命され、約24年間教鞭をとる。東京美術学校時代の聖雲の最も大きな仕事のひとつとして京都・浄瑠璃寺の「吉祥天立像」の模刻（参考図版）が挙げられる。聖雲は昭和6年に約10ヶ月の期間でこの模刻像を完成させる。「吉祥天立像」を岡倉天心は「考謙帝の初期に属すべきもの」としているが、聖雲は模刻のための詳細な調査により「藤原時代の作者が天平を狙って作ったものである」との異説を説いている。実際の制作年とは異なるものの、制作技法の新たな発見や彩色の再現など、その後の美術史上大きな発展へつながった。昭和22年、聖雲は惜しくも58歳という年齢で没するが、聖雲門下生からは三木宗策、澤田政廣など多くの近代を代表する作家が輩出された。

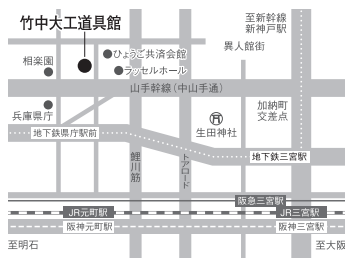
本展によって聖雲の名作を生み出した道具やその手跡が観られるのは、現在木彫に従事するものへの資料的価値はもとより、聖雲の彫刻に触れる機会の少なかった方にも親しんで頂くよい機会となるだろう。

東京藝術大学大学院 文化財保存学 博士課程

Fujimagari Takaya 藤曲隆哉

### 交通案内

- ▷JR・阪急・阪神「三宮駅」徒歩18分
- ▷JR・阪神「元町駅」徒歩10分
- ▷地下鉄「県庁前駅」徒歩5分
- ▷新幹線「新神戸駅」タクシー10分



予告 開館25周年記念巡回展「棟梁～堂宮大工の世界～」2010年10月2日（土）～11月14日（日）

### 入館料 ※団体は20名以上 ※その他各種割引あり

	個人	団体
一般	300円	250円
大・高生	200円	150円
小・中生	100円	50円
障がい者手帳をお持ちの方	無料	
65歳以上の方	100円	

財団法人 竹中大工道具館  
TAKENAKA CARPENTRY TOOLS MUSEUM

〒650-0004 神戸市中央区中山手通4-18-25  
TEL:078-242-0216 FAX:078-241-4713  
URL: <http://dougukan.jp>



写真提供/東京藝術大学

16歳にして高村光雲の弟子となった関野聖雲（1889～1947）は、彫刻家として、また教育者として明治以降の木彫文化の礎を築いた人物です。彫刻家の中でも特に道具好きとして知られる聖雲の道具には、多様な形状の彫刻刀や、ひとつの仕方のためにつくったと思われる鑿や鉋などが遺されており、それらの道具によって優れた彫刻作品が生み出されました。本展では、聖雲が実際に使用していた道具約40点を一堂に紹介します。

# 彫刻家 関野聖雲の道具



【参考図版】  
「吉祥天立像」（模造）  
東京藝術大学蔵  
※本展には出品されません